

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年改訂) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東別院・後藤マンション新築工事	階数	地上11F
建設地	名古屋市中区平和二丁目808番1、808番2、809番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年5月22日
敷地面積	374 m ²	作成者	
建築面積	261 m ²	確認日	2023年5月23日
延床面積	2,124 m ²	確認者	



ください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 97%
③上記+②以外のオンサイト手法 97%
④上記+オフサイト手法 97%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4

音環境	3.1
温熱環境	2.9
光・視環境	3.9
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.7

機能性	2.5
耐用性	3.0
対応性	2.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.3

生物環境	2.0
まちなみ	2.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.3

建物外皮の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0

水資源	3.0
非再生材料の	2.9
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

地球温暖化	3.1
地域環境	2.5
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	高効率設備を採用し省エネルギー性能に配慮するとともに、利用者の快適性向上に努めている	その他 特になし
Q1 室内環境	使用建材全てにF☆☆☆☆製品を使用し、かつ高い自然換気性能を確保することで、健全な空気質環境づくりに努めている 住戸部で高い昼光率を確保。共用部はタイマーによる照明制御を行い、光・視環境へ配慮した計画	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー	省エネルギー性に配慮している	LR3 敷地外環境 光害対策に十分に配慮した計画
Q2 サービス性能	配管に長寿命材を採用	
LR2 資源・マテリアル	極力ノンフロン断熱材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避を行った	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

東別院・後藤マンション新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.1
LR1	エネルギー	3.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。